



# くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館 開館時間 9:00~16:00 休館日 月曜・年末年始(12/28~1/8)

## 企画展 病と祈りの歳時記

— さまざまな健康への祈り —

～11月27日まで

くらしに関わりがあり、民俗的な要素の強い展示は当館でも珍しく、企画展開催から4カ月で来館者数は2万人に達しました。企画展の会期もあとわずかとなりました。

収穫の秋、博物館におでかけになりませんか？

今回は展示の資料にまつわる話を中心にご紹介いたします。



企画展  
病と祈りの歳時記  
— さまざまな健康への祈り —

- ▶ 企画展示室の様子。  
中央左が茅の輪くぐりの「茅の輪」
- ▼ 蘇民将来の注連縄  
三重県二見町松下社  
30×57×7



内藤記念くすり博物館

1994年5月18日～11月27日

▲ 企画展のポスター。麻疹絵「はしかのまもり」(36×25)を使用

### 病気をよせつけないために

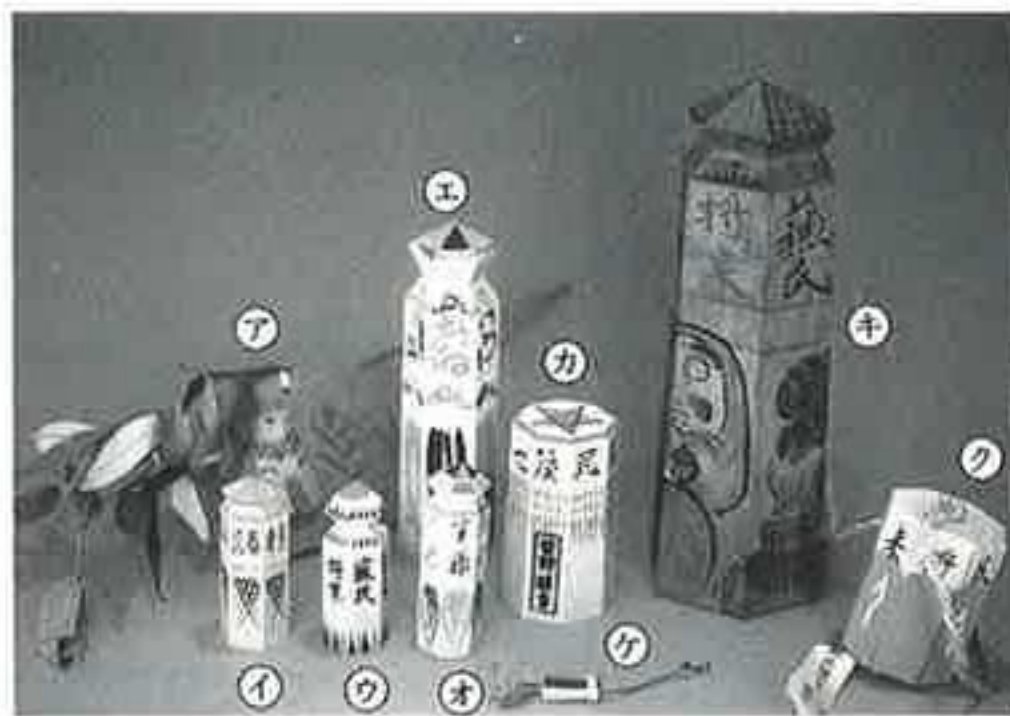
#### 蘇民将来の伝説

奈良朝時代の『備後風土記』に蘇民将来の伝説があります。

この説話には「昔、旅人が富裕な巨旦将来という人に宿をもとめたが斥られ、貧しい蘇民将来を訪ねると、快くもてなしてくれた。旅人は小さな「茅の輪」を蘇民将来に与えた。その後、疫病が流行する度に蘇民将来とその家族は災厄を免れた。旅人は実は牛頭天皇の化身だった。」とあります。

その後、「蘇民将来子孫」とかかれた札を掲げると、悪疫除けになるといわれています。今日も疫病除けのお守りとして、全国各地の牛頭天皇をまつた神社などでだされます。

茅の輪くぐりは、夏越の祓ともいわれ、この輪をくぐることで、罪やけがれ、災厄や疫病をはらい浄め、健康に無事すごせるといわれて、現在も日本各地で行われています。



なお、牛頭天皇をまつた愛知県の津島神社の近くでは、伝染病よけの話にまつわる「あがた」と「くつわ」というお菓子が作られています。「あがた」は、インドのアッキヤダ(薬草)が日本語になったものともいわれます。また、「くつわ」は茅の輪の形のようにです。

◀ 左より……

- ㊦① 蘇民将来 愛知県津島市 津島神社  
12×35 / 3×3×8
- ㊦② 蘇民お守り 兵庫県神戸市 祇園神社 3×3×8
- ㊦③ 蘇民将来 埼玉県飯能市 天王山竹寺 4.7×4.7×17
- ㊦④ 蘇民将来 長野県神川村 国分寺八日堂薬師 2.5×2.5×9
- ㊦⑤ 蘇民将来 山形県米沢市 笹野寺 笹野観音  
5.3×5.3×9.2
- ㊦⑥ 蘇民将来 長野県神川村 国分寺 八日堂薬師  
9×9×25
- ㊦⑦ 蘇民将来 京都府京都市 八坂神社 5.5×7×7
- ㊦⑧ 蘇民将来 宮城県仙台市 陸奥国分寺木下薬師 1×2.5  
(単位: cm)



## 長野県野沢温泉村

### 道祖神のいわれ

長野県の北信地方では、火を用いた勇壮な戦いを伴う道祖神祭りが伝承されています。この行事には最初の子供の出生祝い・厄年の祓い・良縁祈願などを兼ね合わせています。

野沢温泉の木像道祖神は、カワグルミ、シナノキ、シラカバなどの木を切りそろえ、上部の皮を削り顔をかきます。着物に梅紋・巴紋を入れ、紙製の帯を結んだ男女一对の神像を作り神棚にまつります。

1月14日の夜から15日の昼には、神像に灯明、神酒、ごちそうを供えます。そして、祭場へ持参し、社殿に参拝します。前年の神像を祭場におかれた平桶におさめ、前においてあったものが良いと思えば交換して持ち帰り、翌年まで神棚にまつります。

#### ▼道祖神



(5.2×18×25)

(6.5×20×29)

#### かたしろ 形代として

人形をつくりドンドン焼きで燃やしたり、村はずれにおくり出すことは、この人形が人々の災厄を背負っておくり出されるお祓いの形代の役割を果たすという一面がうかがわれます。

人形は特定の家でまつられます。例えば初正月を迎える子供のいる家、男子七歳、女子十三歳の子供のいる家などです。人形を子供の数だけ作る場所もあり、家族のひとりひとりや、子供たちの身代わりとなる人形の役割を示しています。

道祖神は、人形という形をとりつつ、境を意識する場所にまつられ、村（地域）や家を守る神です。形代の役割から、災厄を集めて疫病神の像になり、さらに境の守護神像へと性格をかえていったように思われます。

## 疱瘡絵にえがかれた源 為朝

疱瘡には赤色がいいと信じられ、患者の周囲をすべて赤づくめにしました。疱瘡神もみな赤色に塗られ、赤絵といわれる赤色の絵草子が作られました。

「鳥もかよわぬ」とうたわれた八丈島に流された為朝の武力と威力で、八丈島に疱瘡が流行しないという俗信があり、為朝の赤絵が疱瘡除けの護符として流行するようになりました。

また、寛永九年（1632）に八丈島に流れついた樽の中から島人が抜きとってもちかえたものに、病原菌がついていたため感染し、翌日から発病者がでました。この時、八郎神社の祈念で治ったという故事があります。

疱瘡が軽くなるという意味の軽焼き煎餅の袋に、為朝の錦絵がえがかれ、疱瘡見舞に大変珍重されました。源氏と平氏の源平合戦では、源氏は白で平氏は赤でした。源氏の為朝を平家のように赤くした疱瘡絵は川柳でもよまれています。

『為朝を平家にしたる疱瘡絵』

#### しょうき 鍾馗

鍾馗の絵は端午の節句ののぼりにみられますが、もともと中国伝来の信仰です。鍾馗は唐の玄宗を悩ました病魔を退治したという言い伝えにもとづいて疫病除けになると信じられてきました。

## 絵馬のはなし

神に馬をささげる信仰から、やがて馬の図が絵馬になったといわれます。また、神社・仏閣に絵馬を奉納

#### ◀赤 絵▶

『豆州八丈島鎮守  
正一位八郎  
大明神正像』  
(46×33)



◀『疱瘡見舞軽焼』  
(53×42)



歌川芳盛▶  
『疱瘡絵』(桃太郎)  
(31×20)



◀歌川芳盛  
『疱瘡絵』(鍾馗)  
(31×20)



する風習は平安期からみられ、室町期には人々の素朴な祈願がみられるようになりました。

#### ◀間々観音授乳加護の絵馬



境内にはいると、布に綿やもみ殻をいれて作った手作りの絵馬が千羽鶴と共に、びっしりかけてあります。明応元年（1492）に授乳加護の仏が、小牧山に出現したといわれますが、現在も安産祈願や授乳加護を訪れる人が後をたちません。  
(10×15×4.5)



## 健康を祈って……

日本では古くから、人生の節目ごとに祝い、感謝する行事を行ってきました。特に幼い子供は抵抗力が弱く、気候の移り変わりに影響を受けやすいため、子供の無事成長を祈る行事は大切にしてきました。

今もなお宮参り、お食初め、虫封じ、端午の節句、七五三などの行事



▲犬張子

が、各地で行われています。また子供の育児上の縁起物や玩具、お守りは実にたくさんあります。犬が安産で子の成育のよいことにあやかった「犬張子」、日々無病息災でころりんと七転び八起きし、人生を全うするようにという「おころりん」、強く元気に育つことを祈願した「三春駒」、幼い子供の虫封じをする「虫切り鎌」、子供の初節句に贈られる「八朔の馬」。現在の医療においてさえ、心のも

▼虫切り鎌



ち方や病気とたたかおうとする意欲がその治療に極めて重要になると認識されています。医療が乏しかった昔、子供たちが病気になると回復を祈ったり、玩具をもたせることは、慰めであったと同時に心のもち方をよい方へ変えることになったのでしょう。行事や玩具に深い親の愛情が感じられます。

## ビデオで紹介

企画展の会場では、愛知県と岐阜県の行事をビデオをつかってご紹介しています。



＜芝馬祭＞

愛知県一宮市白山社に伝承する祭りで、旧暦の八月一日、現在は九月に行われます。芝（ツバナ草）と藤のつるで作った芝馬を子供たちが村中ひきまわし最後は水法川に流して祭りは終わります。

人々はこの芝馬の訪れで一年の厄事災難を免れます。子供たちは芝馬をひくことで、無病で健やかに育つといわれています。



＜粥杖占い＞

岐阜県川島町の神明神社で、一月十四日に粥杖占いを行います。

粥の中に竹の管をいれて煮て、その管につまった粥の多少で、その年の農作物（米・大麦・小豆など23品目）の豊作を占います。また、この粥を食べて、無病息災を祈ります。昨年不作と占われた米は、今年は豊作ということでした。

粥杖占いは、かゆじょううらない・かゆづえうらないともいう。粥杖神事というところもある。

## 四季おりおりの年中行事

### 秋の行事

#### 重陽の節句

菊は古くから、薬用にされ病気や悪気をはらう呪力があると考えられてきました。古代中国の思想にもとづくと、長寿、延年の花とされます。



▲菊の着綿（被綿）

菊の花に覆い被せた真綿のことで、この綿に移した菊の花の露で、顔や体をふくと、不老長寿を保つといわれます。9月9日の重陽の節句の前日に菊の花の上に綿をのせます。

社団法人日本植物園協会第29回大会総会が5月23日、静岡県の伊豆熱川で開催され、そのときに『ビャクダンの開花・結実と育苗について』の題名で発表をしました。

ビャクダン（白檀；Santalum album、英語名：Sandalwood）はインド原産の著名な香木です。その心材には香気があり、仏像彫刻・じゅず・扇子などの材料、あるいはお香の原料などに使われています。

薬草園の温室にあるビャクダンの木は、1973年に、国立衛生試験



所伊豆薬用植物栽培試験場よりいただき、育てたものです。6年前より花をつけるようになり、3年前からは毎年実をつけるようになりました。また、ビャクダンは、根の先端に吸盤を持つ半寄生植物なので、寄主を必要とし、そこから水・養分を補給

## ビャクダンの開花と結実

します。薬草園では、インドネシアのバリ島と同じ手法で容易に苗づくりにも成功しました。

そこでビャクダンについて今までの観察記録をまとめ、その開花時期、果実の黒く熟すまでの期間、発芽所要日数、発芽後の成育伸長とその育苗法を発表しました。

日本の植物園ではビャクダンはまだ珍しく、くすり博物館以外には、



国立衛生試験所伊豆薬用植物栽培試験場、同種子島薬用植物栽培試験場、東大小石川植物園、熱川バナワニ園など数園が保有するのみです。開花結実する木となると当園と種子島（樹齢23年）の2カ所です。そのため、総会参加者の皆さんも興味をもたれたようで、質問も多く、その晩の懇親会でも話題となりました。そして、後日5つの植物園に苗木を分譲することになりました。

薬用植物園主任 白井英夫





◆薬用植物友の会が始まりました  
薬草園では、“薬草の栽培から利用まで、実地作業を通して習得する”という友の会を4月から始めました。会員は37名。取り組んだ薬草はカミツレ、エビスグサ、トウキの3種類で、作業は次のようなものでした。

まず、4月はエビスグサとトウキの播種（たねまき）と開花間近のカミツレの土寄せ。5月はカミツレの収穫。千歯こきで花をこきおとし、持ち帰って自宅で乾燥。6～8月は残る2種の栽培管理で、暑い中、草取りに汗を流しました。9月はエビスグサの収穫とカミツレの播種（来年5月収穫予定）。“酷暑”の夏でしたが、病人・ケガ人・退会者もなく、皆さん楽しく活動されました。

この友の会は1年で終了となり、来年度は2月頃、新規募集の予定。

◆『今月の薬草』は盛況です

季節の薬草の解説を行う『今月の薬草』は、2年目を迎えました。今年度は4月より12月まで、月の第1・2日曜日に催しています。いずれも20～30名くらい参加され、中には毎回いらっしゃる方もあります。

◆夏休みこども教室は

大にぎわいでした！

7月30日・31日の2日間にわたってカレーとポマnderを作りました。ポマnder作りでは、チョウジの強いにおいにおい皆さん驚いていましたが、一生懸命レモンに刺していました。読売新聞・岐阜放送・NHKで採り上げられました。

◆カロリー計算機が2台に！

今までのマークシート方式に加えて、タッチパネル式の機械を導入。モニター画面に映る指示にしたがって画面をタッチしながら、カロリー計算を進めるものです。摂取した栄養のバランスや肥満度もわかるので健康管理にお役立てください。

## とびっくす

◆常設展の一部を展示替え

昨年好評だった企画展『病む目とめぐすり』のダイジェスト版を展示するとともに、今までの展示を見直して、解説を増やし、展示資料も並べなおし、わかりやすい展示に。

◆この本をおすすめします

——新しく刊行しました

『碧素・日本ペニシリン物語』

くすり博物館には、日本抗生物質学術協議会より寄託された昭和20(1945)年当時の碧素（当時ペニシリンをこう呼びました）が展示されており、また当時の研究報告も資料として収蔵しています。しかし、日本の抗生物質研究開発の端緒となったペニシリン研究開発の歴史は意外と知られていません。そこで、このたび昭和53(1978)年新潮社より刊行されたこのドキュメンタリーを復刻いたしました。

この本では、個人の名誉や利害を越えての共同研究によって、きわめて短期間に日本独自のペニシリンが開発された経緯が語られています。著者は角田房子さんです。

1冊 1,000円



『病と祈りの歳時記』

——さまざまな健康への願い——

この本は、今回の企画展の図録として出版されました。展示された病魔除けのお守りや郷土玩具、また健康祈願に関する資料が美しい写真と簡潔な説明で紹介されています。

はしか絵や疱疹（ほうそう）絵の読み下し文からは、当時の人々の病気へのおそれや対処法などが読み取れます。 1冊 700円

◆資料の貸し出しがありました

5/24～6/17

適塾

『緒方洪庵とくすり』

——薬箱と手紙——

緒方洪庵の新しく出てきた資料の

特別展に、ウルユスの看板やらんびきなどが貸し出されました。

5/14～5/15

日本東洋医学会学術総会

『漢方展覧会——その歴史と現在』

薬の発展の歴史を中心としたパネルや看板、漢方の製薬道具を展示しました。

7/22～8/28

信玄宝物館

特別展『人と自然と虫たちと…』

中近世の人と昆虫の関わりについての展示の中で、昆虫の生薬である蟬退や冬虫夏草などが貸し出されました。

7/30～9/18

神戸市立博物館

『鎖国・長崎貿易の華』

ギヤマン/更紗/金唐革』

貿易の歴史的資料と美術品の特別展に、金唐革の往診用薬箱や一角・烏犀角・象牙などの生薬が貸し出されました。

資料・図書のご寄託・ご寄贈  
ご芳名

青木 誠 石川松太郎 石原理年  
伊藤達夫 江崎正彦 黄煌(中国)  
大島政文 片桐一男 片桐平智  
神山重郎 木下良裕 国木田誠一  
小島宗一 篠田達明 思文閣出版  
清水良夫 鈴木 昶 宗田 一  
高田正徳 高橋昌幸 竹内孝一  
筒井栄吉 東京薬事協会  
東洋ガラス(株) 内藤祐次  
中島路可 長門谷洋治 西巻明彦  
西山茂夫 日本新薬(株)  
日本ロシュ(株) 根本曾代子  
長谷川香料(株) 服部 昭  
冷牟田英三 平本昭南 深井甚三  
Roy T. Sawyer(英国)  
益原地域活性化研究委員会  
松本明知 松本祐二  
Margareta Härdelius(スウェーデン)  
水野瑞夫 横山雅昭 三原文  
宮崎 惇 村瀬一郎 村松文雄  
鷲野正昭 (敬称略)

～お詫び～  
村松文雄様

『くすり博物館だより』第27号のご芳名の欄より上記のかたのお名前が落ちていましたので、深くお詫び申し上げますとともに、掲載させていただきます。

館長 岩井謙治郎 学芸員 森裕美(編集担当)・水野加代 学芸員・司書 野尻佳与子・伊藤恭子 庶務 森田麻起子  
説明員 小島敦子 薬用植物園 白井英夫・栗本省三・松尾三雄 顧問 青木允夫・逸見誠三郎  
内藤記念くすり博物館 〒501-61 岐阜県羽島郡川島町エーザイ(株)川島工園内 Phone: 058689-2101 Fax: 058689-2197